きばっちょいもんさ

「こんな機械を作れない？」まずはご相談下さい

南日汽缶工業株式会社
代表取締役　本村　嘉啓

よくご質問をいただきますが，弊社の社名の汽缶と言うのはボイラーのことです。1964年の創業以来，工業用ボイラーを仕事の柱の一つとしていますが，ボイラーに必要な油タンク，水タンク，煙突等を自社で製作するようになったのがきっかけで，製缶と呼ばれる金属製のタンク，容器を製作する鉄工の仕事も手掛けるようになりました。現在はボイラーから発生する蒸気を利用した，加熱・冷却，蒸留・精製，濃縮・乾燥といった機能をキーワードとする様々な化学機械・プラントの設計・製作を行っています。

また，ボイラーに使う水にはボイラーを傷めないために軟水化，脱酸素といった水処理が必要です。ここから水処理との関わりが生まれ，水処理用薬剤，ろ過装置，排水処理設備といった製品を扱うようになりました。

さらに，重油を燃料とするボイラーは煤煙発生施設となり，定期的な測定の義務が生じます。このため，環境計量士を２名置いて煤煙，ダイオキシン等の測定・分析業務を行い，排ガス処理装置の設計・製作も行っています。

こう書いていると本業は何なのだと言われそうですが，「工場設備のコンビニを目指しています。」とお答えしています。近くて便利で何でも揃う，小さいけれども売れ筋の商品なら最新のものをご提供します，といった形で鹿児島県内を中心として300を越える様々な製造業の工場に設備を納入させていただいています。

小さな会社ですので，なかなか独自の研究開発を進めるのは困難ですが，幸いに弊社の技術を信頼していただいているお客様方から年に何件か，「こんな機械を作れない？」というご相談をいただき，既製品には無い新しい機械，設備を設計から製作まで任せていただくことがあります。弊社としてはいささか背伸びをしてお受けする訳ですが，このような機会に新しいテーマに積極的に取り組み，苦労して完成させることが技術力のレベルアップにつながっています。

工業技術センターは，このような新製品開発で困った時の頼りになる相談相手です。また弊社の日常の業務でも，ボイラー燃料の化学分析，金属材料の溶接部の評価等をお願いしており，無くてはならない存在です。最近では，かごしま水処理研究会に参加して，これからの水処理について勉強させていただいています。

鹿児島は１次産品には優れたものが多いのですが，それを工業的に加工して付加価値の高い製品として売る努力がさらに必要だと思います。弊社も県内製造業の縁の下の力持ちとして，お役に立てるようさらに努力していく所存です。

南日汽缶工業㈱　本社・工場

試験用常圧蒸留器
鹿児島大学 焼酎学講座 納入品